

紙参議、畠山元衆議が市内で調査活動

日本共産党の紙智子参議院議員、畠山和也元衆議院議員（衆議院比例北海道ブロック予定候補）は8月22日、根室市内で漁業問題、領土問題について調査を行いました。鈴木一彦、橋本竜一両市議が同行しました。



落石漁協で聞き取り調査を行う右から紙参議、畠山元衆議、鈴木市議、橋本市議

歯舞漁協ではコンブの現状などについて、調査を行いました。

現状は、過去に例を見ない不漁とのこと。歯舞地区は、7、8割が

コンブ漁です。今年の売り上げ計画は約20億円を見積もっていましたが、6月末段階での見込みで約13億円と、計画より7億減、豊漁の年と比べると半減となっており深刻です。

海水温の上昇が影響していると思われるが、確証はありません。国や北海道でしっかりとした調査を行ってほしいとの要望がありました。

花咲港地区では、須崎和貴市議（会派紬）のご協力で、漁業者のみならずからお話を聞きました。神忠志元市議が同席しました。

漁業者からは、「コンブの着生は悪くないが、質が良くない」「早くも枯れてきた」など、今年のコンブ漁の厳しい実態が語られました。また、後継者がいないことや不漁の

時の漁業者への補償、そして海洋環境激変に対する国等の本格的な調査の実施など、切実な要望も出されました。

落石漁協ではウニやコンブの状況、安全作業などについて調査を行いました。

一昨年の赤潮で壊滅的な被害をこうむった落石地区のウニですが、赤潮から逃れたウニ（赤潮の影響がない水深にいた）がいた模様で、資源は少しずつ回復しているとのこと。

コンブについては、落石地区もひどい状況で、8割減とのこと。コンブは大気中の二酸化炭素を吸収します。国が「ブルーカーボン」を言うなら、雑海藻を駆除しコンブを増やすことに予算をつけるべきだとのご意見が出されました。

千島会館では、元島民1世と2世の方々から話を聞きました。

1世の方からは、島から命からがら逃げ出して

きた様子、今日まで返還運動を続ける中で自分たちの思いを後世に伝えていくことなどをお聞きしました。また、墓参が再開され、もう一度先祖の墓前で手を合わせたという切実な願いも訴えられました。

2世の方からは、返還運動に3世、4世の方をいかに参加していただくか、また、北対協の融資制度の拡充など、現在千島連盟で取り組んでいる課題についてお聞きしました。「国が返還運動に本気で支援を」との要望も出されました。

根室市水産研究所・栽培漁業研究センターを視察しました。市水産研究所では、特に甲殻類の研究で全国的に知られています。

栽培漁業研究センターでは、実際に栽培中の水槽を見ながら、現在中心的に取り組まれているホシカイシマエビ、ヤナギダコ、ウニなどについて、担当者から説明を受けました。